

# 平成26年度 事業報告

平成26年4月1日～平成27年3月31日

公益財団法人 井上育英会

## 事業の状況

### 1. 奨学生の選考・奨学金の貸与

#### (1) 大学別・年次別 学生数・奨学金貸与額（平成27年3月31日現在）

大 学	5 学 年	4 学 年	3 学 年	2 学 年	計	月 額	年間貸与総額
北 海 道 大 学	1	5	4	4	14	410,000	4,830,000
東 北 大 学		2	3	2	7	208,000	2,346,000
東 京 大 学		5	4	2	11	365,000	4,380,000
一 橋 大 学			1	1	2	65,000	780,000
東 京 工 業 大 学		1	1	3	5	155,000	1,860,000
名 古 屋 大 学		2		1	3	84,000	1,008,000
京 都 大 学		2			2	65,000	780,000
大 阪 大 学		1	1	1	3	95,000	1,140,000
九 州 大 学	1		1	2	4	125,000	1,500,000
合 計	2	18	15	16	51	1,572,000	18,624,000

#### (2) 奨学金貸与月額

	自宅	自宅外
東京・近畿	30,000円	35,000円
その他の地域	28,000円	30,000円

### 2. 奨学生に対する勉学、進路等の指導・助言

#### (1) 月例会等

在京学生に対して、毎月第一水曜日奨学金支給時に学生委員を中心とするOBが夕食を共にし懇談と指導を行った。各支部でも毎月奨学金支給時に懇談会が行われ、いずれも奨学生の相談が相次ぎ進路等について適確なアドバイスを与えた。

また季節の例会として、初夏例会(6月20日「私の起業の道程:その教訓と日本経済の将来」ジャパマクロアドバイザーズ 大久保琢史氏)、秋季例会(11月14日「経済学徒から楽徒へ～ある桜菱会員の転身物語～」つちむら音楽工房 土村和史氏)、新年例会(1月24日)を開催。いずれも学生とOB会員ら数十人が集い、講演と懇談で啓発の実をあげた。支部においても、東海(7月)、北海道(2月)、東北(12月)、近畿(7月)、九州(1月)などでそれぞれ行われた。

#### (2) 卒業祝賀行事

3月6日の祝賀前夜祭は、全国の卒業生と新奨学生と昨年同様それ以外の奨学生も参加、OB含め76人が老舗 江知勝のすきやきを囲んで懇談。学生の自己紹介とOBの激励が続いた。

翌7日の祝賀会はホテルグランドパレスで行われ、役員や支部代表の先生方から卒業生らにはなむけの言葉が贈られた。

また同日、卒業生以外の全国の奨学生が参加し、交流会が行われた。昼は東京スカイツリー・六本木ヒルズ・東京ミステリーツアーなど東京の学生が企画した3コースに分かれ観光、夜にはOBも加わり懇親会を行い、他支部の奨学生との交流を深めた。

卒業生を送る会は北海道・東北・九州など支部ごとにも行われた。

#### (3) 新奨学生歓迎行事・スキー合宿等

首都圏在住の新奨学生を歓迎するバス旅行が7月5・6の両日に行われた。新奨学生と先輩の学生・院生・OBらが参加し、しらびそ高原と駒ヶ根、飯田と南信州の旅を楽しんだ。北海道・東北・近畿の各支部でも歓迎会・一泊旅行等が行われた。

恒例のスキー合宿は平成27年1月10日から3日間、新潟県赤倉温泉で行われた。

16人が参加、白銀の大自然の中で滑りを楽しみながら、心身を鍛えた。東北支部のスキー旅行は、2月21・22日オニコウベスキー場で行われた。

#### (4) 会誌の発行等

会誌「新桜菱」 第230号(H26.6) 第231号(H26.9) 第232号(H26.12) 第233号(H27.2)  
平成26年10月現在の会員名簿を作成・配布した。

### 3. 育英資金の募金

本年度は延べ174人の方から応募があり、醸金総額は2,978,000円であった。

## 附属明細書

事業における重要な事項は平成26年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特に無いため、当年度の附属明細書は作成しない。